

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第 45 号
平成 23 年 1 月
生涯学習課文化財係



よみがえる古文書 ～古文書修復の世界～

展示期間
平成 23 年 1 月 5 日(水)
～3 月 31 日(木)
※図書館休館日を除く
※期間中、展示史料の変更を行う予定

長岡京市では平成 19 年度から市内に残された古文書の修復に取り組んでいます。古文書の修復の際には、なるべく現状のまま保存するか、破損などを専門家の手で修復し、現状のままでは分からない歴史的な情報を明らかにするか、などを十分に検討する必要があります。今回は、長岡京市が修復した古文書と、古文書修復の世界を紹介します。



浄土谷村文書の発見と修復まで

平成 16(2004)年 3 月、浄土谷地区^{みたに}御谷神社の^{おおい}覆屋を修復した際に、およそ 700 点の古文書(浄土谷村文書)が、地元の方々によって発見されました。

これまで、浄土谷地区では資料の発見が少なかったこともあり、他地域に残された古文書でその歴史が明らかにされてきました。この発見によって、江戸時代の浄土谷村の様子がさらに詳しく明らかになってきました。

なかでも古絵図は、内容も特産物や田畑・川・字名がわかる貴重なものでしたが、虫損・破損・汚損・湿気による損傷が激しく、絵図の情報を得ることが困難でした。

そこで、平成 19 年、20 年、21 年と3カ年計画で、文化財修復の専門家に委託し、絵図をはじめとする浄土谷村の概要がわかる古文書について、長期的に保存するための最善の処置を行いました。



平成 16 年、発見当時のようす
(乗願寺境内にて)



発見された絵図のうちの 1 点

湿気により紙が腐食し、ヨレてしまっている。獣糞などによる汚損も甚大である。



修復後のようす

汚れが抜け、ヨレが伸びたことで、絵図に描かれた情報が読み取れるようになった。



村の基礎資料の修復とその工程

平成 20、21 年は、同じく浄土谷村文書の中でも、特に江戸時代の浄土谷村のようすを示す、基礎資料となるものを選択し、修復を行いました。以下では、平成 21 年に行った、元禄 3(1690)年「新検浄谷村名寄帳」の修復工程を紹介します。

「新検浄谷村名寄帳」は江戸時代中期の土地台帳で、土地の所有者ごとに、持地の地名、面積、取高が記された村の基礎資料と言えるものです。浄土谷地区ではこれまで見つかっておらず、大変貴重な資料でした。しかし、長年の湿気による水濡れと、虫糞被害により、開くことも不可能な状態でした。修復の結果、付箋が約 30 点近く貼られて土地所有者の変化が分かるほか、関係する古文書が 1 点挟み込まれていることも判明しました。



修復前の「新検浄谷村名寄帳」



修復の工程（「名寄帳」の場合）

- ① 修復資料の調査
資料の状態や損傷の程度を調査・記録
- ↓
- ② ドライクリーニング
本紙表面のホコリ・虫糞などを柔らかい刷毛や筆などで除去
- ↓
- ③ 解体
虫糞などで固着している本紙を、竹べらなどで一紙ずつ解体
- ↓
- ④ 本紙の整備
竹べら・ピンセットなどを使用し、虫損などによって本紙から外れた紙片を本来の場所に戻し、和紙で固定
- ↓
- ⑤ クリーニング
浄化水によって本紙に湿りを与えながら皺や折れを伸ばし、さらに和紙を当てて汚れを移し取る
- ↓
- ⑥ 裏打ち・乾燥
本紙に負担をかけない厚さ・質の楮紙を用い、海草を原料とする新糊で裏打ちを行う。本紙画面が表になるように仮張りし、十分乾燥させる
- ↓
- ⑦ 整形・仕上げ
仮張りからはずして元の折り目で折り畳み、整形。その後、全体を三分割し冊子状に仕上げる



本紙の整備



クリーニング



裏打ち



修復後